

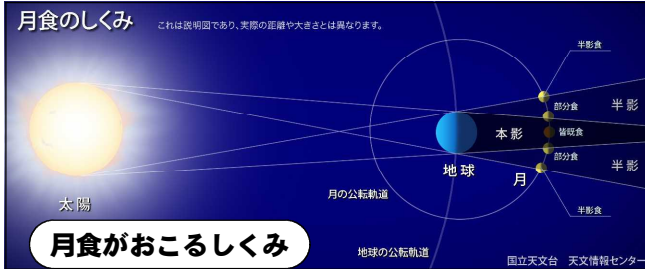


夏休みには夜空を楽しもう!

赤く見える皆既月食

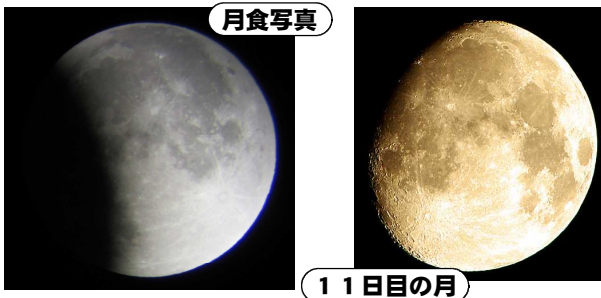


部分月食を見よう 8月8日(火)午前2時22分~4時18分

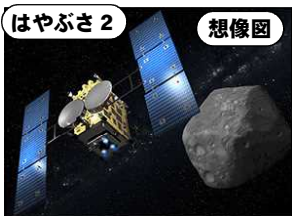


5月にも紹介した日本で見られる今年(ことし)の1番(ばん)の天体(てんたい)ショーが、部分月食です。この日は満月(まんげつ)で、明石(あかし)では、真夜中(まよなか)になるので、がんばっておかないと見られません。午前2時

22分に南西の空で部分月食がはじまり、だんだんしずんでいきながら、3時20分に1番かけたじょうたいになり、朝(あさ)4時18分で部分月食がおわります。1時間56分もたのしめます。

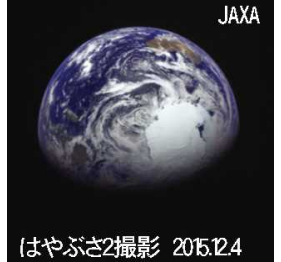


今回(こんかい)の食(しょく)の最大(さいだい)は、やく25%かけます。左(ひだり)上の写真(しゃしん)は、2011年にさつえいしたやく25%かけた様子(ようす)です。月食の時(とき)の月の形(かたち)と、いつもの月(11日目の月)の形とは、かけ方(かた)がちがうので比(くら)べてみましょう。



小惑星探査機「はやぶさ2」がんばれ

「はやぶさ」の帰還(きかん)で感動(かんどう)をよんだ小惑星探査機(しょうわくせいたんさき)の2号機(ごうき)「はやぶさ2」は、2014年12月3日にH-IIAロケット26号機で打(う)ち上げられて、2018年に小惑星(しょうわくせい)「Ryugu(りゅうぐう)」に到着(とうちゃく)し、2020年に地球(ちきゅう)にかえってきます。2015年12月14日には右(みぎ)のような地球(ちきゅう)の写真(しゃしん)をおくってきました。JAXAは2017年7月12日、「りゅうぐう」にやく3千万(ぜんまん)キロまでちかづき、あと1年で到着(とうちゃく)するとはっぴょうしました。うまくサンプルをもち帰(かえ)られるかの第(だい)1歩(ぽ)です。来年(らいねん)がたのしみ!



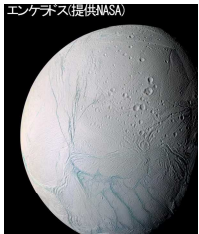
なつ だいひょうせいざ さ
夏の代表星座 さそり座を見よう

さそり座は、アルファベットのSの字(じ)の形(かたち)をしています。ギリシャ神話(しんわ)で、このサソリはしっぽの毒(どく)でオリオン(冬の星座)を殺(ころ)したといわれ、オリオン座はサソリをさけて冬にでてきます。見つける目印(めじるし)となるのが、サソリの心臓(しんぞう)で赤くかがやく1等星のアンタレスです。南の空を見るとすぐに見つかります。



わくせい どせい もくせい
惑星 土星や木星を見よう

夏(なつ)やすみ中の土星は、ぼうえんきょうでは左上(ひだりうえ)のように見えます。右図(うず)は、月と土星がならぶ8月3日21時の南(みなみ)の空のようすです。さそり座(ざ)の上のほうで、6~9月ごろは見やすくなり、1等星(とうせい)より明るい0等級(とうきゅう)なので明石でも肉眼(にくがん)で見つけられます。いまは土星の北側(きたがわ)が地球(ちきゅう)のほうに傾(かたむ)いているので、環(わ)が大きく見やすくなっています。天体望遠鏡(てんたいぼうえんきょう)で見られればはっきり環が見えます。わたし



が星をすきになったのは、先生(せんせい)になって、野外活動(やがいかつどう)にいったときに、土星のわを見せてもらって「ほんとうにわがあるんだ」と感動(かんどう)したからです。

左は、NASA土星探査機(どせいたんさき)「カッシーニ」が6月にとった土星の衛星(えいせい)「エンケラドス」のしゃしんです。2004年から土星をまわりながら、土星の大気(たいき)やもよう、わの構造(こうぞう)、衛星(げいせい)(月みたいなもの)などをくわしく調(しら)べています。打ち上げから20年、土星をまわりだしてから13年のカッシーニは、9月15日に土星大気(どせいたいき)に突入(とつにゅう)しておわりになります。いまは、土星本体(どせいほんたい)とわの間(あいだ)のすきま



をくぐりぬける探査(たんさ)をしています。

7月ごろまでは、木星(もくせい)も明るく輝(かがや)いています。「木星のほうが西にあり、明るい」ので見つかりやすい。

望遠鏡(ぼうえんきょう)がなくても明石には天文科学館(てんもんかがくかん)があります。8月4日(金)19時30分~21時に明石公園「西芝生広場(にししばふひろば)」で申込(もうしこみ)もなしで無料(むりょう)で観望会(かんぼうかい)をしてくれます。土星の環(わ)を見にいつてみませんか。



木星